

助けたい命がある

金沢大学附属病院から石川県民のみなさまへのお願い



命を守るために 医療を守るために あなたにできること 私たちからお願いしたいこと

昨年春以降、県内の主要病院の多くはコロナ禍に対応すべく、石川県の医療調整本部と協力し新型コロナウイルス感染症患者の入院治療を行ってきました。第3波までは医療調整がうまく機能し、感染陽性者の大部分は県内の病院で入院治療あるいはホテル療養を行うことができました。金沢大学附属病院は重症患者を中心に受け入れ集中治療室にて懸命に治療を行い、多くの患者さんは元気になり自宅に帰ることができました。

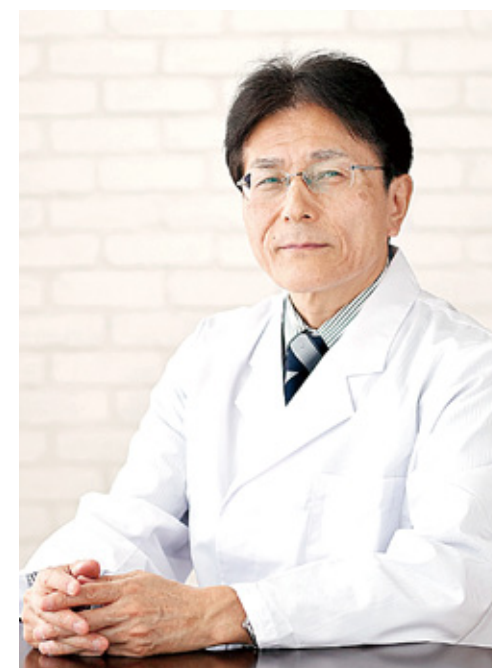
しかしながら、今回の第4波は感染力が強い変異型ウイルス感染が多くを占めています。そのため5月に入り新型コロナウイルス感染症患者数が急増し、石川県からは県独自の緊急事態宣言が出される事態となりました。現在では、新規感染者数が病院の空床数を越えたた

め、速やかな入院が困難となり、調整に時間を要する例が増加しています。今後も新規感染者数の増加が続けば、石川県の医療は破綻する恐れがあります。そうなれば、これまでなら助けられた命が助けられない事態になりかねません。コロナ病床をこれ以上増やすことは容易ではありません。残された方法は新規感染者の数を減らす以外にはありません。

県民のみなさまにお願いしたいのは、ただ一つです。とにかく不要不急の外出は避けて新型コロナウイルスに感染する機会を避けて頂きたいと思います。

我々医療関係者はこれからも県民の命を守るために全力で頑張ります。御協力宜しくお願い致します。

令和3年5月12日 金沢大学附属病院長 蒲田 敏文

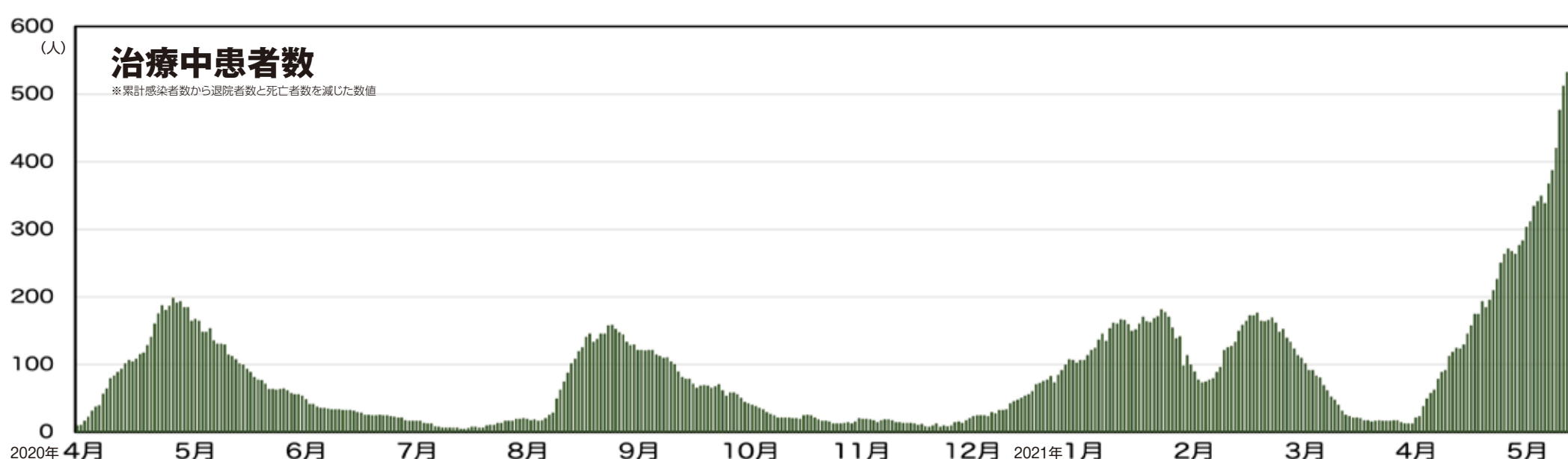


新型コロナウイルス感染症診療の現場より

新型コロナウイルス感染症で今まさに苦しみ続ける患者さんだけでなく、新型コロナウイルス感染症以外の病気で治療を待ち続ける患者さんも、破綻しそうな医療体制と必死に闘い続ける医療スタッフも、救えるのは、あなたの良識ある行動だけです。

COVSAT初代リーダー・金沢大学附属病院救急部長 岡島 正樹

急増する
県内の感染者



石川県庁ホームページ公表データを元に作成